

E スクエア・プロジェクト「学校企画実施計画書」

1 応募するプロジェクト名：「学校企画」

2 企画テーマ名称

障害を持った子どもたちの交流を深めるための電子メール利用

3 企画のねらい

(1)背景

同じ学区にある中学校の特殊学級とは、例年、秋の焼き芋交流など、年に2回ほどの交流を行ってきた。中学の特殊学級の子どもたちは、全員本校の卒業生であり、6年のYくんとはとても仲良しであった。

そこで、この関係をさらに深めるとともに、本校特殊学級に在籍する、4年・2年・1年の友だちへと関係を広めることで、将来、同じ地域に住む者同士、助け合える関係が生まれるきっかけになるのではないかと考えた。

また、Yくんは中学への進学を控えているので、中学校の特殊学級の友だちとの結びつきを1年間かけて深めていくことで、スムーズに中学校への進学を行うことができるのではないかとと思われる。

しかし、例年のように年2回の活動だけでは関係を深めていくのは難しい。より継続的な活動が必要である。そこで、今年は交流会の回数を多く計画し、Yくんには、年数回の体験入学の機会を計画した。さらに、電子メールを用いることは、お互いの意識が途切れることなく、交流を継続させる上で、有効に働くのではないかと考えた。

本校特殊学級に在籍する子どもたちは、どの子もコンピュータに興味を持っており、Yくんはキーボードによる「かな入力」。他の子どもたちは、子ども用の入力ソフトを用いることで、字の入力を行うことができる。そのためコンピュータを使った、今後の活動の発展が期待できる。

(2)企画実践の必要性・新規性・汎用性・波及効果

- ・通常学級に比べ、特殊学級での電子メール利用の実践例が少なく、障害をもった子どもたちのインターネット利用についての研究が進んでいるとは言えない。そこで、こうした実践事例を多く発表する必要がある。
- ・同じ地域に住む者同士、これから助け合って生きていくための素地となる力を、小学校の段階から育てていく必要がある。
- ・これからのネット社会に生きる子どもたちに、電子メールの活用と、交流活動を併用する活動を通して、コンピュータの向こう側に人がいることを体験的に学ばせる必要がある。
- ・電子メールを連絡手段として取り入れることで、お互いの時間や距離に拘束されることがなく、情報のやり取りを行うことができるので、学校現場では有効な連絡手段であると考えられる。
- ・コンピュータとインターネットへの接続環境が整っていれば、どの学校においても実践

可能な活動である。

- ・他校との交流を行う場合に、意識を継続させていくことが難しい。そこで、その問題の解決策の一つとして、電子メールの有効性が実証できれば、通常学級における交流活動についても応用することができる。

(3)企画の成果目標

- ・子どもたちが電子メールに興味をもち、その発信、受信ができる。
- ・文字や写真を用いたメールを作成することができる。
- ・交流相手のことを知り、相手のことを考えながら電子メールを書いたり、活動の計画を立てたりすることができる（相手を思いやる気持ち）。
- ・交流会への期待をもち、交流相手と一緒に楽しむことができる。

4 企画の概要

(1)対象

小学校知的障害児学級在籍児童

6年生 4年生 2年生 1年生 各1名 計4名

(2)実施内容

本校がある茅野市は、平成13年度地域イントラネット基盤整備事業の指定を受けており、計画ではこの夏に両校とも、各教室からインターネットに接続することが可能になる。

年間計画に従い、交流会と電子メールのやり取りを併用していくことで、関係の深まりが期待できるのではないかと考えられる。また、日常的なことを、交換日記のようにやり取りすることで、

- ・小学生にとってはこれからいく中学校の様子を知ることができる。
 - ・中学生にとっては母校のことを知ることができる。
 - ・中学生、小学生それぞれの視点で、身近のものをとらえ、興味・関心を広げていく。
 - ・故郷玉川へ関心を寄せる。
 - ・電子メールを身近なものに感じる。
 - ・文章の表現力を高める。
- など効果が期待できるのではないかと考える。

活動内容については、「成果目標」と照らし合わせながら、子どもたちの作品や活動の様子から評価を行っていく。

【評価内容】

- ・進んで交流会に参加しようとしているか。
- ・身近に起きた出来事を、電子メールとして発信しようとしているか。
- ・交流相手のことを考えながら、計画を立てたり、電子メールを書いたりしているか。

など

5 実施体制

(1)実施体制

校内研究部会の一つとして、本年度、特殊学級に在籍する児童を対象とした研究部会が立ち上げられた。今回のプロジェクトはその部会での研究内容の一つとして取り扱っていく。

また、今回のプロジェクトを行っていく上で、以下の組織に協力していただく。

組織名	協力内容
茅野市立東部中学校 知的障害児学級	今回の活動での交流相手校 在籍児童 中学2年生 2名(本校卒業生)
玉川PCボランティア	本校の情報教育のサポートをいただいている組織。 今回のプロジェクトでも、ハード面を中心にサポートしていただく。

(2)実施スケジュール

月	実施内容
5月	交流会に向けての準備活動 電子メールの交換 自己紹介 学級の様子を紹介
6月	第1回交流会・交流会お礼を電子メールで送信 教室にコンピュータを持ってこよう 身近に起きたことのメール交換日記
9月	運動会の様子を紹介 交流会の打ち合わせ 第2回交流会
10月	中学校文化祭見学 体験入学 交流会に向けての情報のやり取り 音楽会の様子を紹介
11月	第3回交流会「やきいも交流会」
1月	体験入学 体験入学のお礼の電子メール 学級の様子の情報交換 交流会の打ち合わせ
2月	第4回交流会

(3)実施環境

コンピュータシステム

コンピュータ室に20台のパソコンがあり、ネットワークにつながられている。インターネットのプロバイダは地元のケーブルテレビ局で、CATV回線で接続されている。

さらに、この夏には、平成13年度地域イントラネット基盤整備事業により、各教室に情報コンセントが設置され、教室でインターネットに接続することが可能になる。

そこで、今回の助成金を利用して、教室内へのコンピュータを導入し、子どもたちが日常的にコンピュータや電子メールを扱える環境を整えたり、障害を持った子どもたちでもコンピュータの扱いやすい環境を整えたりしたいと考えている。

アプリケーション

今回の活動では、子どもたちが自由に電子メールを利用するために、子ども用開発されたソフト「スタディノート」を活用する。